

はじめに

『君と私という存在』

拝啓

はじめに、この本を購入していただいたことに対し、厚く御礼を申し上げます。

ひいては、この本が少なからず何かしらのお役に立つことを願っております。

さて、今をもって、ここには『君』と『私』という二つの存在のみが、実在することに相成ったわけですが、はたして、君はどういう人物で、どういった理由から、この本を手にとられたのでしょうか。

何かしらの精神的な落ち込みがあり、藁にもすがる思いから、この本を選ばれたのでしょうか。それとも、ただ単に興味本位から手にとられたのでしょうか。気になります。

ただ、突然このような質問をぶつけられ、戸惑っているかもしれませんね。ですが、私は児童心理カウンセラーである前に、一人の人間として、君という存在について興味関心があるのです。といいますのも、『君が見ている世界には……』どのような世界が広がり、どのような物や人がいて、どのような価値や思考が渦巻いているのか、考えれば考えるほど、ワクワクするのです。もちろん、これはあくまで本ですから、残念ながら君の声や思考は、私の耳には届きません。それは本当に残念です。

しかし、今の時点で、もしかしたら、君は君の周りにいる大切な物や、大切な人を想像し、何かと思考を働かせてくれたかもしれないわけです。イメージすることの楽しさや、改めて自分について考えたときに、見えてくる世界があることを知ってもらえたならば、それは私の願っていることが、一つ叶ったということになりますから、ここで本を閉じていただいて結構です。お疲れさまでした。

今、君はどんな顔をしているのでしょうか。

突然に終わりがきて、また戸惑っているのかな、それとも怒っているのかな、くだらない本だと思つて、力任せに壁へ投げ飛ばしているのかな、今の君のことを想像すると、クスクスと笑つてしまふ私を許してください。

私は実にふざけた人間で、患者である子どもたちからも、いつも怒られ、説教されたり、呆れられたりする人ですから、合わない人は本当に合わないため、こちらに悪気がなくとも怒らせてしまいました。ですが、それでいいのです。私は私で、君は君ですからね。君は君の感情を大事にしてください。人間には喜怒哀楽という素晴らしい愛情表現が備わっていて、そのときの感情を他者に向けて、自己証明ができ、他者に対しても意思表示することができるのですから、『時と場合』という大人の事情はこの際、横に置いておいて、君は君であることを意識すればいいのです。

ここには『君』と『私』という二つの存在しかありませんからね。

そして、君は君の感情を大いにぶつけ、それがいかに大きな価値があることなのかを知ってほしいのです。

さて、前置きはこのくらいにして、君がもしも私という人物に対して面白いと感じたならば、この本を読み進めてほしいと思います。

この本には、児童心理カウンセラーとして、私が関わってきた症例や、今の教育社会、人間という

生き物について、私なりの考えを書いていますから、私という人間がどういいう人間であるのかを知ると同時に、読み進めながら、君という人間に対しても、君自身が改めて考えてみてください。

それでは、さらに深く本の世界へと、いつてらっしやいませ……。

2023年 杉谷 昂律 敬具